

20/1/25 シンポジウム「名古屋城木造天守復元事業は一体どうなるの？

～名古屋城木造復元事業とバリアフリーの行方～

名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし

辻：ただいまより、名古屋城の木造天守復元事業は一体どうなるの。名古屋城の木造復元事業とバリアフリーの行方を開催させていただきます。

司会は私。

名古屋城木造天守にエレベーターを設置を実現する実行委員会で事務局長の辻が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、当団体共同代表の齋藤縣三よりご挨拶をさせていただきます。

齋藤：皆さんこんにちは。名古屋城木造復元エレベーター設置を実現する会実行委員会の共同代表の齋藤と申します。

今日のシンポジウムもう何回かこうしたシンポジウムは開催してきておりますが、私どもの会が実現して結成されている。2年近い歳月がたっておりますけれども、皆さんもご承知のように、木造復元の計画は全く進行しておりません。

先般22日の朝日新聞の朝刊に大きく報道されておりましたけれども、市長は昨年11月の段階で石垣部会と会合して石垣調査をまずしっかりするという、そういう記事が改めて出ておまして、和解するも何もないわけであって、石垣部会がそもそも石垣を調査しなければこのままでは石垣は崩壊する。

ましてや木造復元そのものが石垣を痛めてしまうということからしても問題提起していきたい。全くそれに耳にかさなかったというのが市長であって初めて彼が聞く耳を持ったというだけのことであって決して和解とかそんなレベルの話ではありません。

しかしながら、問題はそれだけでは決してないわけであります。

実は2018年の彼がエレベータを付けないという方針を最終決定して間もない時期に私どもは文化庁に出向いてですね、文化庁から直接お話を聞いたことがあります。

その段階で、文化庁が石垣の保存ということ、当然大事ってということ同時にバリアフリーという価値と文化財保存という価値、これはどちらも大切だ。それを全く名古屋市の計画では考えられていないということ同様問題にしておりました。そういった意味では、市長がいまだにバリアフリーという価値について全く理解していないということではないと思います。

ですから本当に単に石垣の問題だけではなくて、根本的に名古屋市長の姿勢が変わらない限り、この木造復元はありえないとしか私どもは思っておりません。

そういった意味で、改めて今日木造復元の問題点は何かといったことを幅広い見地から、考えていきたいと思っておりますので、どうぞ1日よろしく願いいたします。

司会者：では早速、講演に入りたいと思います。

本日は名古屋大学名誉教授谷口元先生をお招きしております。

講演のタイトルは「名古屋城の確保、現在、未来の価値を考える。ユニバーサルデザインと科学技術進歩の観点も交えて」というタイトルです。

谷口先生のプロフィールにつきましては、28 ページをご覧ください。

1949 年、名古屋生まれ。そして多くの公共建築物の設計計画に参加されております。

また中部国際空港や愛・地球博の会場のユニバーサルデザイン。近年は豊田講堂などの建築に携わられております。では谷口元先生よろしく願いいたします。

谷口氏：皆さんこんにちは。

私はお城の専門家ではないですし建築の歴史の専門家でもないんですけども

この名古屋城に関わるいろいろな事柄ですね。事件といってもいいぐらいの事柄ですけどやっぱりいつかちゃんと発言しておかないといけないなあと今日小一時間、私の今までの建築の別表の中で関連のありそうなことをスライドに纏めてお持ちしました。それを中心にお話をします。

皆さんにお配りした資料+数枚余分なスライドが入っています。追加した、直前に追加したスライドそれをご覧になりながら私の話を聞いてください。

最初の1枚に私の言いたいことをほぼ全て書きました。

歴史的な建造物に必要なこと、それは真実性、信憑性が必ず担保されること。ちょっとカタカタ用語ですごい難しい概念なんですけどそれはまた後で。それから不特定多数の人が使う建物、その場に慣れていない人ですね。慣れていない人たちも入っている様子の時に

その人の安全性をその空間をよく理解してない人でも安全が保たれる特殊建築物であること、これ例えば私の専門である病院もそうなんですけど。

病院の中で災害があっても、安全に保たれるというそういったのを造られること。

それから3番目文化財。世界的にもそうです。日本でもそうなんですけど保存、単なる保存だけです。そのまま歴史を残すということだけではなくて、活用をする。ただそこにあるのでなくて保存するんじゃなくてそれをみんなのために活用するというそういう大きな流れがあります。これは国土交通省も文化庁も取り決めて非常に重要な考え方があります。

いわゆる観光資源とか地域の資源として活用する。

そのために何が必要かっていうとやっぱりユニバーサルデザインなんですね。公共財産ですから、ユニバーサルデザインにする必要性は必ずある。それを話をちょっと最初に前段でやります。

それから4番目にタイトルにありますように前の焼失する前の木造の国宝名古屋城の価値、古くからですね「尾張名古屋は城で持つ」という最近ほとんど使われてません。

つまり皆意識からお城がだいぶ薄れてるんですね。私も子供の頃この言葉がよく出てきました。

尾張名古屋は城で持つ。

それから燃えた後その喪失感を失ったその残念な気持ち、失望感を満たすために2度と燃えない鉄骨鉄筋コンクリートで造ろうということを決めたんですね。

燃えない建物、燃えない名古屋城。博物館に指定されています。

博物館名古屋城、そういう意味でやっぱりそういう市民のですね、市民の敗戦と痛手と燃えたという痛手、それから解放する、回復するといったそういったような気持ちで造られました。

で今後、今話題になってる木造の建物、新名古屋城、木というそういう循環材料がコンクリートは実はもう永遠の材料ではないってことがだんだんわかってきたんですね、戦後何十年も使ってきて、木というそういういわゆる再生可能な材料で造る、それと、はてなが書いてあるのは実は私はいまだよくわからないんです。なぜ木造で造った方がいいのか。

それから5番目これはこの会議の、今回のテーマですけども、誰でも使える昇降手段っていうのがあって公募をされるそうです。

実際に確立された安全に不特定多数の人を運ぶ昇降手段それと未来はどうなるんだろうかということと少し最近の私が使っているいろんな科学的技術の進歩も含めてお話をし、最後に纏めて終わりたいと思います。

歴史的な建造物に必要なことそれは真実性、信憑性を確保すること。

カタカナで言うとオーセンティシティー、オーセンティシティー非常に難しい哲学的な概念です。あるいはインテグリティという言葉も最近使われています。

非常に難しい概念でいまだにまだ芸術家たちが議論しています。

これはなにかというやっぱり歴史とか芸術文化の蓄積を図っていこうということですね。

蓄積を図るんですけども、でもオーセンティシティーというのは偽とかまやかしを認めないとかそっくりさんも認めないということですね。私の言い方でいうと歴史的な捏造は避けるべきだということでもあります。

フォロ・ロマーノと言ってちょっとローマ外れのところに古代ローマ帝国の元老院跡があります。有名な観光地になっています。ご覧のように遺跡ですね。

シーザが暗殺された建物で、上はちょっと別の建物です。これが暗殺された場所で、比較的に残っていますけど誰もこれをもと通りの古代ローマの姿に戻そうなんて思っている人は誰もいないんですね。これがオーセンティシティー。

安土城、お城の跡が残って非常に魅力的な場所です。琵琶湖が遠望できるし凄くいいところです。どっかのテーマパークに安土城、偽の安土城がテーマパークのなかです。

テーマパークのそれからこのお城の跡地のそばに安土城の資料館があって名工大の内藤先生という有名なあのお城の研究者がいろんな資料に基づいて復元した模型がおいであります。これは模型ですね。

文化庁のある人などは「名古屋は1分の1模型を作ろうとしてるらしいんですね。」ちょっと皮肉を込めて言われています。これ江戸城、江戸城の天守閣。天守閣があったんですね。

でも明暦3年1657年に明暦の大火というのがあって火の粉が飛んできて燃え尽きちゃたんですねお城全体が。関ヶ原の戦いから50年以上たって江戸はもう敵はいない、いわゆる争いはもうおこらないそういうことで再建で天守台までは造ったんですけど、それ以降は造らなかったんですね。家綱の後見人で保科正之という会津藩の藩主なんです、家光の異母兄弟です。天守閣を造るよりも江戸の復興を優先するべきだ。天守閣は無用の長物であるというふうにいったんですね。すごい、いい判断ですよ。

人々の生活の復興が最優先であって、天守閣はもう平和の時代だからもういらぬよということで、現在でも皇居のなかにも天守閣はないですね。そういう為政者とすごい素晴らしいですよ判断が。

名古屋もお城これは燃える前に、1945年5月14日、米軍の空襲によって国宝名古屋城を焼失してしまいます。

これを再建するときにもうお城の専門家はやっぱり真実性、信憑性をどう確保するかということをも多分悩んだと思うです、で今日の鉄骨鉄筋コンクリートの建物を造ったんです。

特殊建築物の話をも2番目にしました。

言葉が多いんで大変ですが。不特定多数の不慣れな人々が中にある建物の安全性は保障される。避難能力に関して様々な人々がいる。杖をついている人もあれば、車椅子の人もある。いろんな人に耳が聞こえない、見えない。そういう人たちは様々な人がいるところをどうやって避難計画を作るか。安全に逃がすか。その特殊建築物はやっぱり耐火性能を高い建物にしなきゃならない。専門的に言うと2時間を超える耐火性能がないといけない。それから階ごとに防火性区域になっている。

燃えてない階に逃げればとりあえず安全、地上まで逃げなくてもとりあえずは別の不活の階に逃げれば安全である。それから2方向に避難。一方通行じゃなくて2方向に必ずあの避難できて、そこに避難できる階まで非常階段が繋がってなくちゃいけない。

それから最近ではですね、同じ階に水平に安全区画に逃げる、上下で逃げるってのは大変ですから、とりあえずは同じフロアで横に逃げれば安全になる、暫く安全であるそういったような区画を作る。それから火災の感知器や消火設備が整っていなければならない。

こういうの考えるのももちろん専門の人たちが考えなければいけないのですが、文化財というのは、やっぱりそういう非常に貴重な材料なのこれを全てに満たすととてもじゃな

いけど、木造の文化財残らないわけですね。それで緩和規定というものがあって、あと今度の名古屋城も緩和規定を守らないと再現できない。

実は、緩和規定っていうのがありますけれども、こういう水準以上の安全性能がないといけない。木造であっても。非常に大変なことです。

文化財、保存から活用へと大きく舵取りがなされています。

かつての史跡というものはいかにそれを守るか。利用とか鑑賞が制限される。

今は地域の人々の共有の財産であり、久しく利用することができる施設です。

等しく皆で楽しむことができる施設。文化財の今の新しい風、外国人も多く訪れる文化財。

観光資源としての性能を高めるそのためにはユニバーサルデザインです。

世界中の観光地、観光施設がユニバーサルデザインを前提として施行している。日本ではね。

京都、高山それから上高地なんかもずいぶんバリアフリーになったんですね。あんな山のところ、そういう事が非常に大事なことはみんなわかってきている。

すいません。

私がセントレアのユニバーサルデザインの取り組みをやってきた中でいろんな、どうしてそういうのが世界的にはやり始めたのかなということを調べました。

たどり着いたのは、ユニバーサルデザインというのはアメリカ発のもので、誰もが、普通は誰もが割と使いやすいデザインっていうふうに使われてますけども。

公民権の自由の国アメリカからの非常に重いお話であることがだんだんわかってきました。

メインフラワーという船にのってヨーロッパから逃げてきた清教徒たち。新天地になったものについて、新しく新大陸の開拓を始めるわけですけども、その過程でインディアンを苦しめ。

それからアフリカから奴隷を買ってそれで働かせ、これは奴隷船ですね。

こういう人たちの権利をどういうふうにして守っていくかっていうのは公民権の考え方で。例えば子供なんか昔はもう本当に産業革命の頃はもうどういう世代の人も老若男女関係なしに働かされるという世界ですね。

ユニバーサルデザインというのは誰もが使いやすいデザインというのが生やさしい意味じゃない。世界の警察国家アメリカ、軍隊派遣しますね。

それには隠れたしたたかな国家戦略があることもわかって。

多くの若者がです戦地に赴く、心身を痛めて帰ってくる。

最初は福祉的退役軍人ということで福祉的支援でやっていったんですがなんともならなかった。負担が余りにも多くなった。

ということで誰でも活躍できる環境を作ろうと思いついたんですね。

次お願いします。

人それぞれがその部分が立場に応じた能力を発揮し社会に貢献することができる環境を整えよう。そういう考え方を根底、背景にあります。

高齢者も障害者も含めて全ての人々の存在は社会的な負担ではない。みんなこういう老人も対応する。みんな負担だっていう話なんです。

其の負担どうするんだってことになる。負担じゃない価値である。

社会の生産性創造性の全体を底上げするそういう意味で、ユニバーサルデザインという言葉を使ってるのがだんだんわかってきた。

セントレアとか日本でユニバーサルデザインを実践する前に世界中、いろいろ見て回りますと、円滑な移動も保証され、アメリカ人に教わったのは、エレベーター、エスカレーターあるいはスロープとか階段3点セットをちゃんと目の前にあるとこと、これでエスカレーターに行けない人はエレベーターで行けるし元気な人は階段を選べる。そういう3点セットが必ずないとダメなのであって。

これスペインのグラナダという駅です。中部空港でこれ非常に参考になって、中部空港の一階ずつ出発と到着のロビーが離れています。こういうなだらかなエスカレーターになっています。ですから乳母車もカバンも車いすもみんな同じような状態で昇り降りできます。

それからエレベーターちょっと見えませんが階段もある。そういったような3点セットをちゃんと用意する。

それに乗ってグラナダに行くと世界遺産。これはさすがにバリアフリーではなかったですけれどね。やっぱり貴重な財産です。

私が参画したセントレア、AJU 自立の家のメンバーが幹事役になって障がい当事者や支援者、それから我々学識経験者、それから設置者、行政設計者施工者メーカーのいろいろなものを作ってる人たちも含めてみんなが最後は一緒にやる。

当初の姿勢はですねやっぱり障がい者当事者支援者は圧力団体的だったんですね。

絶対こうしろ。これが最低条件だという話しかなかった。

よって設置者やあるいは行政、施工者メーカーは義務的に考えてユニバーサルデザインを指向しないといけないということをわかってるんだけど義務的に取り組むんですね。でも実際は最後に、次第に一致点を見い出して実現に至ったんです。

私も名古屋城もやっぱりそうあるべきだと思ってます。

そういう実績がありますので、名古屋の輝かしい業績だとおもうんですね。それをぜひそういうふうにしたい。

開港前セントレアを障がい者が一緒にこうチェックする。そういうふうこれが実現したい。

それから愛・地球博。もう山あり谷ありで大変なところだったんですけど、ループをなだらかなループを造ってみんないつも移動どうできる条件を整った。

愛・地球博もエレベーター、エスカレーター、階段3点セットです。

これが愛・地球博のスロープ、これ見てください。乗り物です。愛・地球博のものすごく厳しい基準車いすや乳母車でも入れるようなそういう乗り物にしよう。ものすごいですね。この技術水準からすごい高いですね日本人。普通だとなかなかできませんけどね。普通だったらかなりフラットに。

2027年にリニアが開通します。

大阪まで開通すると色が塗ってあるところが名古屋から2時間で行ける場所。来れる人が7000万このためにやっぱり名古屋駅を改造しないとイケない、そういう取り組みをしてるんですけど。名古屋駅ももちろんユニバーサルデザインを実現しないとイケません。

観光地としての名古屋城も、やっぱりユニバーサルデザインでしないとイケない。ベニス世界遺産、観光都市ですね。運河があちこちにありますのでその運河を乗り越えるために太鼓橋や階段状の橋だらけですね。

ですからもうみんな大変です、移動が重い荷物を抱えて。あるとき訪問しました。

なんと仮設のスロープがこれは足場と現場に敷く板ですね。

それをこの階段状の太鼓橋に設けられているんですね。見てください。ほとんどみんなこっち歩き。携帯をかけてる人とか。売り場とか離れていますけど商売にならないですね。みんなこっち通る。ただベニスも世界遺産の街ですからこの仮設ですとやるわけにはいけない。いかにどういう改装すると観光客をうまく招き入れることができるかっていうところを多分考えていると思うんですね。

名古屋城天守閣だけじゃなくて、やっぱり名古屋城全域、全域がうまくみんなが歩き回る、楽しむことができるという。それから名古屋城の中だけではなくて、周辺のアクセスも含めてユニバーサルデザインをはらわなくてはならないですね。おとし位からやっぱり皆さんと一緒に中の問題のあるところを探すために検討した。

各時代の名古屋城の価値。国宝名古屋城の博物館の名古屋城、再建される名古屋城。最初にまず燃えたお城ね。関ヶ原の戦い1600年。東軍と西軍に分かれた戦いがあった。それで東軍、徳川側が勝利する。その時にやっぱり西の方に敵のいたあたりを固めないといけないということで、従来清洲にあったお城を移転して那古野城があったところに新しい名古屋城を造ったんですね。

1603年に江戸幕府が開府して9年に着手し、たった3年で凄いエネルギーです。

清洲って洲って書いてあるんですから海辺の近くの名前ですね。島っていう名前も土地がずいぶん多い。東海道にいたっては東の海の道です。みな海沿いにあった。

ここにあった高台、名古屋にあった高台で一番目立つような位置に造るんです。

目だって何をやるかという敵が攻めてくる気を起こさないような立派なお城を造ろうということ、そこで日本最大級のお城を造営したんです。

そのために堀川を約1年。1年ぐらいで堀川を開通させてそれでいろんな材料を運んで名古屋城を造った。できた後はもうあとは尾張名古屋は城で持つですから非常に繁栄を極めることになった。

松坂屋とか大丸とかですね。そういう名前が出てくる。

竹中工務店も最初は名古屋城の本町通沿いに竹中工務店ありますね。今では名古屋支店がありますね、創業地ですね。

これは燃える前。今本丸御殿に飾ってあるのはいわゆる模写した芸大の先生や学生が模写したものです。本物ではない。中が博物館ではないからです。本物は飾れないからです。

でも疎開された障壁画とか襖絵がちゃんと残っている貴重な宝。源氏物語絵巻も。確か、徳川美術館で。それから世界にみると磨り減っていないペルシャ絨毯があるはずなんです。日本人はみんなあの裸足で裸足でない、足袋か。足袋をはいて歩きます。すり減っていない。素晴らしいペルシャ絨毯です。いろんなリストをみても僕にはよくわからないのですが。

1945年5月14日、米軍の空襲により焼失。

いろんな人が写真を撮った。心を痛めながらとった写真、これはCGなのかなあまりにもきれいすぎて。当時の市民がとった写真。周辺はあまり燃えなかったのに名古屋城だけ燃えたので、わざとやったのかな。誤爆だったのかよくわかりません。とにかく燃えてしまった。

終戦後、私が10歳の時鉄骨鉄筋コンクリートで造る。

担当したのは建築士の権威、特にお城の建築の専門家であった名工大の城戸久先生。

多くの市民からの寄付で実現したのですが、戦火で失った名古屋の象徴を二度と失いたくない、そういうことで、当時流行始めたという鉄筋鉄骨コンクリートで造った。

でもその気持ちにこそ価値があると思います。人々の気持ちです。

城戸久先生は専門家ですから。そういう江戸時代からの資料それから昭和の資料をですね、それから最後の徳川藩士が写真の収集を趣味にしててお城の中の方々の写真を撮っている。ですから完全な復元はできる。知ってました。多分恐らくね。

こういうような再建をしていく。

その建設中ですね。天守できました。前の木造のお城と違うところ。

石垣の上に建ってみますけれども実際は石垣に力が加わらないように、ますのような大きいケーソンというんですがますをいれてその上に鉄骨鉄筋コンクリートの建物を乗せているんですね。石垣に被害がでないように。石垣は本物です。

デザインが違う。よく見てください。これは防御用の窓ですね。締めればやられない、小さい隙間から相手をやっつけるための防御用の窓。それが連装窓。連続する窓。これは城戸久先生が歴史の捏造を避けるために最上階をこのようにした。連続窓は現在建築の一つの特徴で、現代建築の一つの特徴で現代建築の特徴を中に入れて眺めよう市民の



楽しみのための窓を作ったんですね。これは決して為政者、城主やその家来のための天守閣でない。

市民や観光客が楽しめる場として作ったんですね。

途中階までしかエレベーターではいけません。

あとは、最上階に登るためにはこの階段を登っていかなくちゃいけないんですけど、螺旋階段、二重螺旋階段今見れないんですね、入れないですね。

登る人と降りる人が混ざらない二重は螺旋ですね。二重螺旋階段を作っている。

でもこういう話がくる前はバリアフリーにするならこの二重螺旋の中の空間をうまく使えば、エレベーターの設置できるんじゃないかなあっていうことを今でも思っています。

これ1月19日朝。

中国からの日本建築遺産研究のために訪問したチーム、皆非常に喜ぶ。本丸御殿もいったし彼らは奈良、京都白川郷高山名古屋城をはじめとして、ずーっと名古屋を観ています。

ほとんどこれ文化財です。名古屋に文化財あったんですね。こういったようなところを視察して勉強してそれをその知見を中国で使おうとするのですそういったところです。

私が知ってる範囲で世界遺産に再建されたもので登録されたものがあるかどうか。

私の知る限り一つだけあった。他にもあるかもしれないけど、私の知っているのは一つだけです。

ワルシャワです。ポーランドのワルシャワです。これ45年1月。

大破壊です。ほとんど町中が瓦礫の山になる。で、起ち上がるんですね。

誰が立ちあがったか。市民です。

市民が瓦礫を拾い集めてそれで造り直すんです。お城も広場も。

これがワルシャワ広場。みんな造り直したんですね

なぜ世界遺産になったかっていうのを調べてみるとやっぱり建築科の学生が実測調査で図面をかいていた。それから市民が写真を撮ったり絵を描いたりそれらを集めて、今博物館にそこはなってますけど。それで再現した。それがまさに世界遺産になった理由なんですね。

再建されたことに価値があるという理由です。これも壊れたワルシャワの宮殿です。王宮ですね。再建しました。ある日訪問したら皆が普段はコンサートなんかをここで行うようなんですけど。みんなで楽しいそう。こういうシーンを求める皆ね。一緒にとにかく。

再再建されるであろう木造の新名古屋城。さっき言いましたように木という材料を使う。他にどういう価値があるか、実はやっぱり私にはわからない。なぜそれを造り直さないといけないのか。

もっともだなあと思うのは、もう 20 世紀、特に戦後用いられたコンクリートとかどんどん砂とか石の質が悪くなった。我々は、永遠に残る建築材料、燃えないし、日本にも無尽蔵に石灰、砂、石がある。それを使えば町や建物できるじゃない。ところがその神話はもろくも崩れさって、数十年で劣化してボロボロになってしまう。そんなコンクリートを使って造ったのですから一番問題なのは明治大正平成は昭和という。昭和じゃない建物の歴史からやがて姿を消す、ずっと残らないないですね。我々が作ってきた一番直近のところの町がなくなっちゃう。

やっぱりそれをどうやって保全するというところでやっぱ本当が一番求められる。

よく木造の新天守を作る技術の伝承だとか文化的価値を高めるとか言ってますけど、果たして本当にそうなのかなとは思っています。

期待の問題点と書きました。歴史的な建造物を再現したいという気持ちはわかります。これはちょっとちょっとなかったという永遠でないコンクリート以外の材料で造り直したい。それもでも博物館という貴重な国宝でも何でも保存できる場所。その名前を木造にして捨てるんですか。障壁画もいろんな名刀も源氏物語絵巻も徳川園徳川美術館でしか観れない。

先日も名城を訪れたときに徳川美術館どこですかと。いやだいぶ離れてますよ。といたら諦めて観光客が帰って行きました。

耐火建築物なければ文化財の展示や収蔵は困難です。私も苦い経験があって名古屋大学で展示会やろうとしたら保険会社の保障してくれないそんな安全性が確保されていない場所には展示するためにお金は保険会社は保障しませんというので断念した苦い経験があります。

それから来訪した全ての人、不特定多数の人が共に楽しめる空間が実現できているか。当然ですユニバーサルデザインにしないと。

それから災害時に全ての人を安全に避難できる対策が講じられているか。

最後にですね、僕はこれは最後でいいと思うんですが歴史的な捏造と言われないように。そっくりさんと言われないように。1分の1原寸模型をつくるんですかともいわれているね。ただ僕は木造再建した建物いくつか観てます。お城では例えば掛川それから金沢、観てがっかりしちゃうね。やっぱり当時の職人の腕じゃないんですね。材料も違うし、やっぱり本物にはかなわないです。いくら我々が作ろうとしても。

5 番目、誰でも使える。昇降手段。確立された昇降手段したとみられるか。

確立された昇降手段はなんといってもやっぱりエレベータ、エスカレーターです。

エンパイアステートビルのようなああいう摩天楼のようなビルを作るためのエレベーターが必ず開発されている。永年の経験、事故に基づく安全基準によくありましたねエスカレーター

とにかく、たゆまぬ改善その努力の積み重ねによって、今日では非常にいい昇降手段になっている。

エレベーター、エスカレーター、竖穴も垂直昇降格納中にあります。降格中で他の階に燃え移らない、煙突にならないように、災害時にその区画がよく見るとシャッターのこと非常口の出入口があります。災害時にそれが閉鎖して安全に他の階に止まってそこから避難する。そういったような性能。それを超えるアイデアを寄せられるんですかっていうのが、私ちょっと疑問ですね。

4つの種類。例えばということで中日新聞に載っていたものをちっと持ってきたんですけど。これで国際をコンペを開く。

最初のこれ。歩行作業を補助する技術はパワーアシストスーツ等。この写真が載ってました。

この恐怖に引きつった顔みてください。これはちょっと嫌だなと思いますよね。いかに屈強の若い人でも何か担架に入ってそう。

私の知ってる限りのパワーアシストスーツで一番優れてるのは、筑波大学の先生たちが作ったHALですね。こいつが凄いのはですね。

損傷がおきた場合でも実際的な本当に補助してるけど実際にこれを使ってやると自己回復効果、いわゆる成功したよ、歩くのにと大脳の方にいって、その大脳からかなと勝手に出されて回復能力がいうことを盛んに筑波大学で研究してるんですね。

まずヨーロッパで認可されている。日本ではズーと認可されていませんでした。いや保険の点数に入らない。このHALであっても、昇降にはまだ使っていけないんですね。水平移動だけ。だから昇降ができるものができるのがあと何十年かかるだろうかっていう感じですね。

それから移乗を必要とする昇降技術。これあれですね階段の手すりとか全く付きリフト状のやつ。これはモータのやつです。移乗式のやつ。

これ中日新聞に乗ってましたけど、これって相当昔からありますよね。

エレベーターがちゃんとつけれない地下鉄駅や学校ですね。

学校にずいぶん昔からあります。

しかもこれらを動かすときには周りに人がいると安全が確保できないんで。

一般の入場を制限して使っているという形です。

そんなので避難時安全に逃げられるんですか、逃げることができるのか。

それから移乗を必要としない昇降技術ということでリフト状のやつ。

それは日本特殊工業これが金沢美術館、一番有名なのはルーブルの美術館です。

ある時建築家がピラミッドをルーブル美術館の前に作っちゃったね。

もう大大非難合戦。なんでとんでもないもの作ったんだ。

今では一大観光地、みんなこれを観にくる、中に入ると螺旋階段があってその中に昇降移乗できる。これがオーセンティティーです。これが古い宮殿だった建物と、新しく付け加えられましたそれがわかるようにしている。

地上から直接入場できる技術。この写真。でも入場できるかもしれないけど、どうやって天守閣の最上階にどうやっていくの。

ましてドローン、ドローンは開発途中でですね、ドローンまだ実用開始されたばかりです。

はしご車というのは非常時に避難したり、消火活動したりする道です。

安全性はそんなに確かめられていない。そもそも見世物ではない。

普通に上に行きたいだけです。皆と一緒にいきたいだけです。安全に普通に上り降りしたいだけです。一緒にね。

これアイユニットです。愛・地球博で初披露された。

私が写真撮ったのは京都にはユニバーサルデザイン国際会議があつてとった。これはトヨタの自動車なんです。

今はそういう自動運転車の話ばかり言ってます、世界中で世界中の企業や大学、研究所で次世代型移動媒体、今車って言わないんですね。移動媒体。それは車の形してないですね。していない。そういうの競争で凌ぎを削っています。

名古屋大学も年間数億円。数億円かけて10年ぐらいまだやっています。この移動媒体を開発するために、ものすごい時間とお金がかかるんですね。国と企業と大学でお金を出し合っ。そういう点でも短期間に簡単にそういうものできない。

これが纏めです、特定多数の人の安全と利便性を左右する。

最後に防火化された同じ階の安全に別の階に避難できないなんですね。

現在の設計はこれを満たしているのかどうか。

図面を見た人はあまりいないんですね。非公開です、わかんない。

それから建屋のかそれから複数の直通の縦穴避難階段のもありますか。

あるいはそれに準ずる、あるいはそれを上回る安全対策をちゃんとできてますか。

文化財の建築はこういう避難だけでなくいろんな燃えない材料だったり消化設備。

そういったようなものが盛り込まれているんです。それに準ずるあれを上回ると対策が講じられていますか。

それから復元にあたり新しい真実性を確保。エレベーターやエスカレーターの安全性が確かめられた最良の昇降手段。新技術の開発、製造、認可これが大変、導入。

要するに、期間どう考えているか。三菱のリージェナルジェットまだね安全性が確かめられない。物凄い20年ぐらい前からだ。あの僕が三菱の人から聞いてましたけどまだ一応、とてつもないお金と知恵と時間がかかります。

ということを見ると、私は現時点でエレベータ以外考えられないんじゃないかと。

いろいろ文献をみると中にエレベーターをつけるかつけないかというのは議論する。

大いに外部もあり得ると僕は思っています。

なんでそれを言うがというと、スペインマドリード。

ソフィア王妃芸術センターのピカソのゲルニカという絵を観に行っただけですけども、この建物です。古い建物とエレベーター。これが18世紀に病院を設計し直して芸術センターにしたんですね。1700年代ですね、病院がいつ建てられたかよく分からないのですが多分1600年代以前だと思えます。だから名古屋城と同じくらい古いんです。で古いところと新しい昇降装置をつけてこれが古いところ、新しいところがわかるようにした。これがオーセンティシティー、真実性の確保です。僕が本当に節に望むのはセントレアの風景デッキです。いろんな人がいろんな人と一緒に楽しい。これはセントレアの眺望のある風光ですが、これがこういう風光が天守閣の最上階で登ってみんなが名古屋の景色を楽しむそういう空間になってほしいですね。ぜひそういう空間を実現したいと思います。

ソフィア芸術センター、ここはオーセンティシティーが確保された新しい建物です。安全区画をこういうところに各階に作ってそこにいけば安全になる。階段やエレベーターで下に行く。そういったようなものでいいじゃないか。皆誰もが共に行ける名古屋城それこそが誇りである。名古屋の誇りである、そういったようなものになってほしいな。最後に何を優先、尊重すべきか。

文化財の存在価値か、人間存在の価値か。文化財と言ったって所詮人間が人工的に作ったものです。どっちが偉いの、どっちに価値があると思う。当然そちらの方に価値がある。

文化財の復元の意義、これは皆さん色々復元のする価値があると言ってますけど。やっぱりそれよりも人々が等しく文化財に接近できる権利です。基本的な人権です、それは。

どちらが大事かと言ったら言うまでもないというのが私の結論であります。

そういうことをご清聴感謝いたします。

辻：谷口先生どうもありがとうございました。

非常にわかりやすい講演だったなと思います。

谷口先生への質問については後のシンポジウムで行いたいと思います。

ここで15分の休憩をしたいと思います。

皆さんから見て右側の時計で今1時55分ですが15分休憩させていただきますので、午後2時10分、2時10分から再開させていただきます。

休憩とさせていただきます。